

表 令和 6 年 3 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 19～27 号	1 日、4 日、8 日、11 日、15 日、18 日、22 日、 25 日、29 日 16 時 00 分	噴火活動が継続。南岳山頂火口の爆発、噴 火、噴煙、大きな噴石飛散、火映の状況。 昭和火口では噴火及び火映は観測されて いない。 現地調査による火山ガス（二酸化硫黄）放 出量は、12 日は 3100t/day で非常に多い 状態。 13 日及び 27 日の上空からの観測の状況。 火山性地震、微動の発生状況。 GNSS 連続観測では、島内の一部の基線で 2023 年 1 月頃から山体膨張とみられるわ ずかな伸びが認められたが、4 月頃から 停滞。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟 む基線では、長期にわたり地下深部の膨 張を示す緩やかな伸びがみられる。始良 カルデラ地下のマグマ蓄積の状況。
		降灰予報(速報)	15 日 05 時 03 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、 降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	15 日 05 時 20 分	噴火発生から 6 時間先まで（1 時間ごと） に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 18～25 号	1 日、4 日、8 日、11 日、15 日、18 日、22 日、 25 日 16 時 00 分	新岳の噴煙の状況。火山ガス（二酸化硫 黄）の放出量は、少ない状態。古岳の噴煙 は観測されず。 8 日の現地調査で、引き続き古岳火口東 側及び新岳火口西側割れ目付近に地熱域 を確認、特段の変化はなし。 古岳付近の浅いところで火山性地震が概 ねやや多い状態。新岳付近の火山性地震 は概ね少ない状態。GNSS 連続観測で、2023 年 6 月下旬頃からの古岳付近の膨張を示 唆する変動は 11 月頃から停滞。
		火口周辺警報	27 日 14 時 00 分	古岳火口付近で火山性地震が 2023 年 6 月以降増加し、その後増減を繰り返しな がら多い状態が続いていたが、1 月中旬 頃から減少。その他の観測データにも活 発化を示す特段の変化は認められない。 新岳火口及び古岳火口付近での火山性地 震の発生は継続、火山ガス（二酸化硫黄） の放出も少ないながら継続。古岳火口付 近で、地熱域が引き続き観測されている。 引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の 噴火が発生するおそれあり。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 26～27 号	27 日 14 時 10 分 29 日 16 時 00 分	古岳火口付近の浅いところで火山性地震 が、1 月中旬頃から減少。新岳火口付近の 火山性地震は、少ない状態。火山ガス（二 酸化硫黄）の放出量は、8 月から 9 月に増 加した後は、次第に減少。GNSS 連続観測 では、古岳付近の膨張を示唆する変動が 観測されていたが、11 月頃から停滞。以 上から、新岳火口及び古岳火口から 1 km を超え、また西側では新岳火口から 2 km を超えて影響を及ぼす噴火が発生する可 能性は低くなった。一方、火口付近の浅い ところでやや活発な地震活動が継続し、 火山ガスの放出量や古岳の地熱活動は 2023 年 6 月より前の状態より高まった状 態で推移している。 これらのことから、引き続き新岳火口及 び古岳火口の周辺に影響を及ぼす程度の 噴火が発生するおそれがある。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 18～26 号	1 日、4 日、8 日、11 日、15 日、18 日、22 日、 25 日、29 日 16 時 00 分	火山性地震は、昨年 7 月下旬以降、概ね少 ない状態で経過。山体の西側での膨張を 示すと考えられる地殻変動は、11 月頃か ら停滞。火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 11 月下旬以降、500 トン/日前後で推移。

令和6年3月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報等		概要
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第10～14号	1日、8日、15日、22日、29日 16時00分	現地調査による火山ガス(二酸化硫黄)放出量は、2月27日は2500、3月7日、11～14日、15日、21日に実施した調査では1000、900～1600、1400～2000 t/dayでやや多い状態から多い状態。27日は600t/dayで少ない状態。 GNSS連続観測で、2023年12月頃から草千里を挟む基線及び広域の基線において伸びの傾向が認められたが、1月下旬以降は停滞。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。 火山性微動の振幅は1日以降やや大きい状態から23日以降は小さい状態。火山性地震は少なく、孤立型微動はやや多い状態。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第10～13号	4日、11日、18日、25日 16時00分	火山性地震は少ない状態。火山性微動はなし。噴煙、火映、地殻変動等の火山活動の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第16～19号	4日、11日、18日、25日 16時00分	噴火活動が継続。爆発、大きな噴石の飛散、噴煙、火映の状況。集落周辺での降灰の状況。火山性地震、微動の発生状況。GNSSでは、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加を示す変動は認められない。
		火口周辺警報	27日 11時00分	火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)を切替。最近の活動状況や防災対応を踏まえ、噴火警戒レベルを改定。レベル2の警戒が必要な範囲の「御岳(おたけ)火口中心から概ね1km」を「同中心から概ね1.5km」に変更。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
北海道駒ヶ岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報(臨時) 第2～5号	23日 05時45分 16時00分 24日、25日 16時00分	23日02時35分頃に傾斜変動を伴う火山性微動が発生。その後25日15時まで火山性微動はなく、火山性地震の増加もなく、傾斜計でも変化は認められない。 山頂の監視カメラでは時折、昭和4年火口からごく弱い噴気を確認している程度で特段の変化はない。 火山性微動発生後の活動は落ち着いているが、今後の活動の推移に注意。
十勝岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1号	30日 16時10分	30日13時00分頃から継続時間約23分の小さな火山性微動が発生し、これに伴うわずかな傾斜変動を観測。火山性微動の発生は2023年7月4日以来。 火山性微動の前後で火山性地震の増加はない。62―2火口等の噴煙・噴気の状況は雲により確認できなかった。今後の火山活動の推移に留意。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 浅間山、阿蘇山、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報(定時)を発表している。